

水田農業経営体の所得向上のための 新規需要米「笑みたわわ」の導入推進

鹿行農林事務所行方地域農業改良普及センター

行方地域の水田は湿田が多く、麦・大豆等の畑作物を水田で栽培するには、栽培面・品質面等の課題が多いため、水稻以外の栽培は困難です。このため、水田農業経営体の経営安定には、主食用米から新規需要米への転換が有効な手段です。「笑みたわわ」は、米粉パンの膨らみと硬さのバランスに優れる米粉専用の多収品種であり、新規需要米として位置づけられます。普及センターでは、施肥改善、カメムシ防除指導、栽培マニュアルの活用により、「笑みたわわ」の安定生産を図り、儲かる水田農業経営体の育成を行いました。

追肥による収量および所得向上

「笑みたわわ」は耐肥性のある品種ですが、生育期間が長いため、特に高温年において農家慣行の基肥一発体系では生育後半に肥切れするリスクがあります。

そこで普及センターでは、基肥一発肥料に加え穂肥を行うことで、収量・所得が向上することを実証し、生産者に追肥実施を推進した結果、令和7年産での穂肥導入者が増加する見込みです。

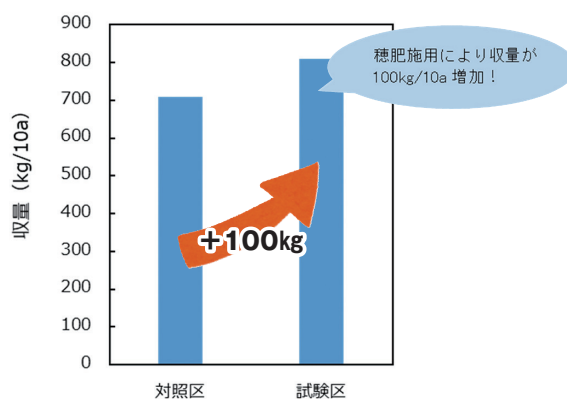


図1 追肥による収量向上効果



図2 ドローンでの農薬散布(左)と
カメムシに加害された斑点米(右)

適期防除によるカメムシ被害低減

近年、斑点米カメムシ類の発生が増加しています。特に晩生品種である「笑みたわわ」は、地域の主要品種と防除適期が異なるため、被害が大きくなりやすいです。普及センターではドローンを活用したカメムシの適期防除実証試験を実施し、実証区では不稔率が15.4%低下し、斑点米減少により品質が向上しました。本結果を生産者に周知し、適期防除の推進を行いました。

「笑みたわわ」栽培マニュアルの作成

管内における「笑みたわわ」の全生産者14名の圃場で生育や品質を調査し、その結果などをもとに安定多収栽培のためのマニュアルを作成しました。栽培講習会や個別巡回の際に本マニュアルを活用し、「笑みたわわ」の安定多収栽培技術の推進を行った結果、本品種を導入する利点が理解され、栽培面積が増加する見込みです。

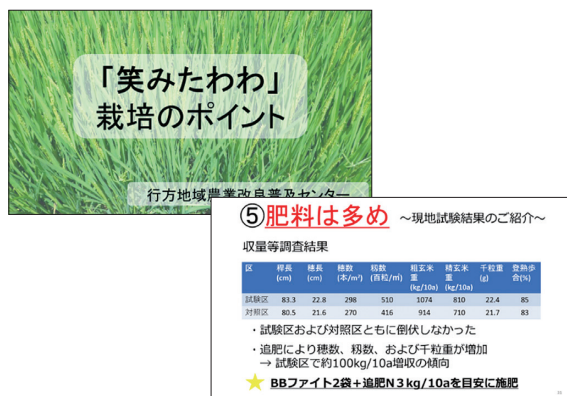


図3 栽培マニュアルの抜粋